

世界遺産登録 再チャレンジ

平泉の文化遺産は、平成23年の世界遺産登録を目指して、再チャレンジがスタートしました。このコーナーでは、登録に向けた取り組み状況についてお知らせしていきます。

第8回 庭園に関する国際研究会を開催

5月19日から21日まで、奈良県奈良市の奈良文化財研究所において「東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会」が開催されました。この研究会は、これまで国立文化財機構奈良文化財研究所が毎年行ってきた「古代庭園に関する調査研究会」の一環として、文化庁との共催で実施されたものです。

今回は中国・韓国から専門家を招き、理想郷と庭園の系譜・特質を検討し、それぞれの事例の比較研究を通じて、日本の浄土庭園の本質、あるいはその究極ともいえるべき「平泉の浄土庭園」の世界的見地からの価値などについて検討が行われました。

研究会では「平泉の浄土庭園が、その典型性・代表性などから他に類例を見ない傑出した事例であり、顕著な普遍的価値を持つ可能性が高い」とされました。研究会の成果は、奈良文化財研究所で取りまとめられる予定で「平泉」の世界遺産登録推薦書の作成にも活用されます。

昨年5月のイコモス勧告では、「平泉の文化遺産は、世界遺産一覧表への記載を検討するのに十分なほど比較研究の成果が示されていない」との指摘がありました。7月の世界遺産委員会

では、さらに踏み込んで「中国・韓国の事例を含め、特に庭園のためのさらなる比較研究を提示すること」が決議されています。

中国・韓国との庭園に関する比較研究により「平泉」の顕著な普遍的価値を証明することは、再審査の第一条件であり重い課題でしたが、今回の研究会によって登録再チャレンジの道は大きく開かれました。



特別名勝毛越寺庭園。今回の国際研究会で、平泉の浄土庭園は「浄土庭園の典型性・代表性などから他に類例を見ない傑出した事例」として高く評価された。

平泉を掘る

平泉文化遺産センターは4月14日にオープンし、開館1カ月で約4,000人の方が訪れています。展示内容は、パネルや映像を使って、平泉の文化遺産を分かりやすく解説していますので、ぜひご来館ください。

今回は、航空写真を使った映像のコーナー「よみがえる平泉の時空」の中から、『平泉を読む』の内容を紹介します。

◎『平泉を読む』の内容

平泉は、三方を川に挟まれた交通の要衝にあり、金鶏山を中心に広がっていました。北には清衡の中尊寺があり、寺院は自然の要害である衣川に守られ、金色堂は平泉の町を見守るように建っています。

南には基衡の毛越寺があり、平泉の玄関口に位置し、毛越寺と観自在王院の周辺には、都市計画による幅30mにも及ぶ大路が走っていました。



航空写真を使った映像コーナー「よみがえる平泉の時空」の一場面

発掘最前線⑦

「平泉文化遺産センター」を訪れてみましたか？

東には秀衡の無量光院があり、仏堂背後の金鶏山に夕日が沈む光景は、現世に現れた極楽浄土であったといわれています。

秀衡は、政庁の平泉館、私邸の加羅御所、仏堂の無量光院を造り、政治・行政の拠点と一体の浄土世界としました。秀衡の時代、平泉は完成し、名声は全国に轟きました。平泉文化遺産センター 高橋和夫

再挑戦に向け一丸で

「平泉」世界遺産シンポジウム



世界遺産登録再挑戦に向け意見交換したパネルディスカッション

「平泉の文化遺産」の世界遺産登録再挑戦に向けた「平泉」世界遺産シンポジウムが5月15日、平泉文化遺産センターで開かれました。構成資産が9つから5つに絞り込まれ、新たな枠組みで登録を目指すことになった経過を踏まえ、基調講演やパネルディスカッションを通して世界

遺産にふさわしいまちづくりや住民主体の取り組みについて学びました。町民をはじめ約100人が出席。高橋町長が構成資産の絞り込みについて「残念ではあるが、文化庁は『平泉の文化遺産』の再推薦やその後の追加登録に向け、最大限努力している。登録実現に向けて一丸となつて取り組みたい」と述べました。基調講演では、京都府立大の野田浩資准教授が「世界遺産『平泉』住民が生かす地域の宝物」と題して講演。住民主体で地域の景観や環境を守ることを大切に訴えました。「『平泉』に求められていること」と題したパネルディスカッションでは、平泉文化遺産センターの大矢館長、東北地域環境研究室の志賀秀一代表、野田准教授、毛越寺の藤里明久執事長が「価値を伝えるのではなく、自然に価値が伝わるのが大切」「家の周りの身近な自然環境の整備から取り組んでほしい」「心の通った文化的景観を守り、新たに創造していくことが重要」などそれぞれの視点から意見を述べ合いました。

ユネスコに声伝えたい

駐日ナイジェリア大使が来町

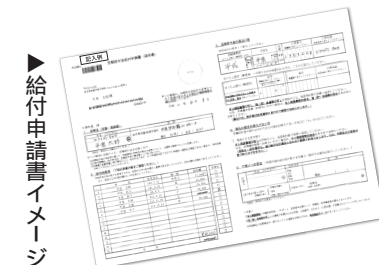


町長(右)と対談するアボ駐日ナイジェリア大使(左から2人目)とその一行

ユネスコ世界遺産委員会の委員国であるナイジェリアの駐日大使が5月27日、当町を訪れました。高橋町長との対談や史跡視察を通し、委員国として「平泉の文化遺産」の世界遺産登録を応援する考えを示しました。訪れたのはゴドウィン・アボ駐日大使。平泉文化遺産センターで行った町長との対談で「登録を目指す平泉の声がユネスコに伝わるよう、力を尽くしていきたい」と述べ、町長と固い握手を交わしました。

申請しましたか？ 定額給付金の給付申請

◎給付申請状況
5月25日現在
93.7%



▶給付申請書イメージ

町では3月下旬、定額給付金の申請書を給付の対象となる世帯主の方あてに郵送でお送りしています。

申請の受付期間は平成21年10月1日(木)までとなっていますが、お早めに申請手続きをお願いします。

なお申請の方法や、給付金の受け取り方などでご不明な点がございましたら、役場定額給付金事務室までお問い合わせください。

◎申請・問い合わせ先…役場定額給付金事務室 ☎46-2111(代表)